

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202790		
法人名	株式会社 スリーコムズ		
事業所名	グループホーム せせらぎの森(のぞみ)		
所在地	札幌市東区東苗穂7条3丁目1-5		
自己評価作成日	令和3年10月19日	評価結果市町村受理日	令和3年12月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigyosyoCd=0170202790-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和3年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣との関係性が強く、札幌小学校のミニ児童会館の定期的な来訪や道徳授業【心のバリアフリー】の受け入れ、1階の札幌保育園のお遊戯披露会等を行っている。ここ数年はコロナウイルスの流行にて全てが中止となってしまっているが、敬老の日等には子供達からお手紙やプレゼントを頂き、直接関わる事は出来ないが、強固な関係性を継続している。ご家族様に対しては、コロナ禍で面会が出来ない状況下でもホームでの様子がわかる様に個別での、せせらぎ通信を発行している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム せせらぎの森」はバス停に近い場所に立地する2ユニットの事業所で、3階建ての2階が住まいになっている。3階には関連法人のグループホームが併設している。1階にある保育園との交流もある。近くの小学校内にあるミニ児童館、また認知症を理解する授業として小学5年生の来訪など、周囲の環境を活かしながら子供との交流を定期的に行い、利用者の楽しみになっている。例年は町内会の行事に参加し、運営推進会議開催などで協力を得ているが、新型コロナウイルス感染症流行のため、外出や外部者との交流が難しい状況にある。管理者を中心に職員と検討しながら感染症対策の具体的な手順を決めている。また事例をもとに接遇マナーのマニュアルなども見直している。運営推進会議の議題を管理者が交代で決めたり、介護計画の見直しでは担当職員がモニタリング評価を行うなど、職員の力量を引き出し上質のサービスに向けて熱心に取り組んでいる。看取りでは家族の思いを汲み取り、感染防止を徹底して居家で会えるように配慮している。事業所内で利用者は季節の創作活動を行い、レクリエーションではホットケーキ作りを楽しんだり、「せせらぎ寿司」と称し、職員の握りで好みのものを選んで食べる。職員は楽しみごとを工夫しながら、利用者がゆったり過ごせるように温かな姿勢で対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○(コロナ禍)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○(コロナ禍)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のぞみ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニットの玄関先やユニット内のスタッフルームに事業所理念を掲示している。いつでも確認する事が出来る様、配慮をしている。	地域で支えあう内容の法人理念と、その精神にもとづいた5項目のユニット理念を要所に掲示し、朝の申し送り後に唱和している。職員は近隣住民との交流を意識しており、日々のケアにつなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度に関しても、コロナ禍の為に地域との交流は行えていない。コロナ禍以前は札幌小学校ミニ児童会館や札幌保育園の来訪があった。直接的な交流ではないが、敬老の日には子供達から手紙や手作りのプレゼントを頂いた。	例年は町内会祭りの参加や小学校の学習発表会に出かけたり、来訪する子供との交流を積極的に行っている。感染症流行から触れ合うことは難しいが、児童からのメッセージを添えた作品を共用空間に飾り、温かな交流となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の小学校で行っている道徳授業の受け入れや近隣住民に対して、回覧板にて介護相談の窓口がある事を発信しているが、コロナ禍にて行えていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍にて書面での会議議事録を構成員に送付している。対面ではない為、中々意見の抽出が難しい所ではあるが、活動内容や議題内容を解りやすい資料として作成している。	前回の課題である参加が難しい家族には意見を聞いている。今回は書面で行い感染症、身体拘束、看取り、防災などをテーマに事業所の取り組みを報告し、書面で意見を得ている。家族会の再開時には意見を会議に反映したいと考えている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	手続き等は必ず窓口まで出向いていたが、今現在はコロナ禍の為に、全て郵送で行っている。必要な時には電話連絡をしている。	感染症流行から各行政担当者に電話で相談し、避難訓練や勉強会のアドバイスを得て実施している。生活保護担当者とは、必要時に電話で話し合い連携を密にしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	コロナ禍前は勉強会にて必ず身体拘束を取り上げ、職員への周知を行っていた。又、運営推進会議の議題でも1年に1回は必ず取り上げている。玄関も日中帯は施錠はせず、夜間帯は防犯の為に施錠をしている。	身体拘束廃止対応指針に沿って委員会を設置し、管理者を中心に事例などを確認している。議事録の内容は職員も把握している。今後は見やすい書類整備を考えている。ミーティングで拘束をしない方法や具体的な禁止行為を学び、利用者の言動を抑制しない声かけで対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束と虐待をセットにして勉強会や運営推進会議の議題として挙げている。		

グループホーム せせらぎの森

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のぞみ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会の開催もコロナ禍の為に中止をしており、権利擁護に関する理解は希薄な状態である。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	一つ一つの事柄を契約書特有の難しい文章のままではなく、ご家族様に理解してもらい易い様、例を挙げながら説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	会社として一年に一度、ご家族様へアンケートを実施している。コロナ禍前は家族会を開催し、意見をお聞きして運営に反映していた。	9月末から面会制限を解除し、事務所で利用者とも会っている。電話や来訪の際には意向を聞き、また法人実施の家族アンケートの結果も把握している。通信の送付で暮らしを伝えているが、LINEなども活用し家族との情報交換を考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月開催されるカンファレンスには課長も参加しており、関係性も近いので意見を伝えやすい環境になっている。	会議では活発に意見を交わしている。職員の意見を収集し対応マニュアルの見直しを行ったり、感染症防止対策では事例の画像なども用いて手順を具体的にまとめている。学びたいテーマを取り上げ、リモート参加での外部研修も考えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社長から会社としての【未来目標】が冊子として置いてあり、職員の意欲向上に繋がっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年に関しても行えていないが、リモートでの研修が受けれる体制は整えている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為、開催自体が中止となっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のぞみ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	余程の遠方でない限り、サービス開始前にご本人様とお会いする機会を必ず設けている。可能であれば、ご本人様にも施設を見学して頂き、新しい生活を安心して開始できる様にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学の際から細かな説明やご家族様の話しをお聞きし、入居前の契約時にも不安や要望をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に余程の遠方でない限りは、ご本人様と面談をして、話しを伺っている。又、ご家族様やケアマネージャーさんからも情報収集をし、ご本人様が不安を抱えての新しい環境でのスタートにならない様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	笑いが絶えない関係性を目指している。ただ、馴れ合いや他人行儀にならない様、良いバランス関係を築ける様にしている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設に任せっきりの状態にならない様、契約時に説明を行っている。入居されても【施設とご家族様で支えていく】という旨を伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	体制は整えているが、コロナ禍にて希薄な状態である。9月下旬に面会の制限を解除したが、ご家族様も感染予防の観点から以前より面会の希望は減少傾向にある。	感染症流行前は知人の来訪もあったが、現在は外部者との触れ合う機会は難しい。馴染みの場所に行くことはできないが、好きな食べ物を選べるように提供したり、趣味の裁縫などに関心が持てるように工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性もある為、関係性を見ながら支援を行っている。無理強いな関係性の構築は行っていない。		

グループホーム せせらぎの森

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のぞみ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約時にも説明しており、居宅介護支援事業所がある事も伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様からお話を伺い、意向の把握に努めている。特にご本人様との些細な会話からの抽出を大切にしている。意向の抽出が困難な方にはADLやご家族様の想いを参考にしている。	重度化になっても言かけの工夫で思いを引き出し、一言をも介護計画表に記載してケアにつなげている。ユニットごとに趣味、嗜好、習慣などの項目はあるが、活かされていない面も見受けられる。	入居時にセンター方式で情報を収集しているので、本人の暮らし方(B-3)シートを活用し、具体的な言葉で追記も行い、アセスメントシートと一緒に見直しができるような工夫に期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様から生活歴を伺っている。契約時には、ご家族様にセンター方式を記入して頂き、今までの暮らしを把握する様にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	気になった事柄は生活記録に記入をし、職員間で話し合いをしている。又、往診医や訪問看護師と密に連携をし、些細な状態の変化も見逃さない様にしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が毎月モニタリングやケア目標の評価をし、カンファレンスにて話し合いを行っている。	短期を3か月、長期を6か月間で見直し、居室担当の職員がモニタリング評価を行い、計画作成担当者がまとめて意見交換後に介護計画を作成している。日々の記録は事業所で検討し、介護計画も含めて記載方法を取り決めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な事柄でも日々の生活記録に記入をしている。ケアの実践結果等は主に毎月のモニタリングで評価をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望された事柄を可能な限り、行える様にしている。ホームで出来る事、出来ない事はご家族様へ契約時に伝えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて行っていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に当ホームの協力医療機関を説明し、利用開始時には看護師からご家族様への説明も行っている。また、今までのかかりつけ医を継続していく事も可能である事を説明している。	協力医療機関の内科医、また歯科医の訪問診療を受けている。専門的な他科受診は基本的に家族が対応し、感染症予防から主治医との相談で処方薬を取りに行くこともあり、柔軟に対応している。	

グループホーム せせらぎの森

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のぞみ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時に入居者様の心配事を相談している。その人に必要な対応を行う事が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院をした際は入居者様の細かな情報をお渡ししている。又、早期の退院に向け、情報の共有や細かな連絡を取り合っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の契約時に【重度化した場合の対応指針】を説明し、終末期には当ホーム、主治医、ご家族様の3者にて話し合いの場を設けている。	重度化対応と看取り指針を文書で説明し同意を得ている。終末期には関係者で方針を確認し、希望に沿って個別に文書を作成し、同意書を交わしている。看取り後には職員アンケートを行い、看取りケアの思いを共有し次の対応につなげている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を予定していたが、コロナ禍にて中止となってしまっている。今現在も行えていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震、水害想定避難訓練を行っていたが、コロナ禍の為、中止をしていた。今年度の10月より再開予定である。例年であれば、年に1回は消防署職員立ち合いの基、1階の札苗保育園と合同避難訓練を行っている。	消防署と相談し、10月に事業所内で夜間の火災を想定した自主訓練を実施している。作成したフローチャートをもとに避難状況を確認している。感染症の収束後には消防署と近隣住民の協力を得て建物全体での避難訓練を考えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員には入社時にケアスタッフガイドと接遇マナーのマニュアルを渡している。	勉強会では具体事例をあげて不適切な声かけについて検討し、人格の尊重ができる声かけをするようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	答えやすい様、簡単な質問形式にて声かけをしている。重度化にて自己決定が難しい方でも、同様の声かけは行う様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人その人のペースを最優先にして支援を行っている。重度化の方は職員が判断する事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能な限り季節に合わせた洋服を選んで着て頂いているが、入居者様の「寒い」等の訴えを優先している。		

グループホーム せせらぎの森

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のぞみ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備を手伝える入居者様はいないが、食後の食器拭きを職員と行っている。お寿司が好きな入居者様が多い為、敬老の日等に実際に職員が握る【せせらぎ寿司】を行っている。	利用者の好みによって個別に献立を変更したり、スープカレーを献立に盛り込むなどの工夫をして普段の食事の中にも楽しみを感じられる取り組みをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の状態に合わせた食事量や飲水量を主治医と相談しながら支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っており、口腔内に異常が見られた際は週1回の訪問歯科医に相談をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自立されている入居者様以外の方は介護度が重い為、時間での、トイレ誘導を行っている。おむつを利用されている人はいない。	多くの利用者はトイレで排泄を行っている。できる限りおむつは使用せず、リハビリパンツや布パンツを使用し、夜間でもトイレでの排泄を支援するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	可能な限り、下剤を使用しない介護を目指しているが、必要な方には主治医と相談をして調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様が週に2~3回は入浴出来る体制を整えている。時間やタイミングもいつでも可能だが、入浴自体が「面倒」と話される入居者様が多い為、決まった時間に行っている。	利用者が希望する日や時間に入浴することができる準備をしている。さらに、同性介助などの希望があれば対応をしている。入浴を希望しない利用者へは時間を変えて提案したり、声かけを工夫し入浴を楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自立されている入居者様はご自分のペースで休まれている。介護度が高い入居者様は傾眠や疲れている様子などから声かけをし、臥床して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフルーム内に各入居者様の服薬情報を見やすい位置に置いている。その他にも薬の追加等があった際には、その都度支援経過記録に記入をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケ好きの方が多く、コロナ禍前はカラオケをよくしていた。今現在はコロナ禍の為、自粛している。その他はユニット内の装飾作り等を行っている。		

グループホーム せせらぎの森

自己評価	外部評価	項目	自己評価(のぞみ)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、実施出来ていない。	感染症の流行により外出ができないものの、事業所の前にある通りには、夏はちょうちん、冬はイルミネーションというように季節の装飾を町内会が行っており、それを居間の大きな窓から眺められるようになっていて、外出した気分を味わうことができる。感染症の収束後には、外食なども検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様が所持する事はしていない。事務所にて保管をし、購入希望があれば職員が代行をしている。コロナ禍の為、一緒に行く事はしていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	行なえる体制は整えているが、希望される方がいない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ユニット内に窓がない為、季節ごとに装飾を変えて季節感を感じて頂ける様、工夫をしている。又、その装飾も入居者様と一緒に作成する事によって、より季節感を感じて頂ける様にしている	居間には職員が制作した立体的な木の枝があり、季節によって桜や紅葉などに装飾を変えることで、花見や紅葉狩りをしている気分を味わうことができ季節感が感じられる。壁には、近隣の小学生が制作した作品や利用者職員と一緒に折った折り紙などを掲示して生活感のある空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前に3人掛けのソファを配置し、気の合う入居者様同士が過ごせる様にしている。又、1人掛けのソファも2つある為、1人の時間を持てる工夫もしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の時点で、ご家族様と配置等を相談し、決めている。その後の生活にてご本人様から希望があれば配置を変えている。入居前の説明時に馴染みの家具の使用を勧めている。	居室内には、利用者の好みの雑誌やテレビなどを持ち込み楽しむことができる。また、職員が制作した作品や家族の写真を掲示して居心地よく過ごすことができるように配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立はされているが、文字が読めない方にトイレマークの案内版を設けたり、各入居者様の居室前に写真を貼ったりしている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202790		
法人名	株式会社 スリーコムズ		
事業所名	グループホーム せせらぎの森(ほのか)		
所在地	札幌市東区東苗穂7条3丁目1-5		
自己評価作成日	令和3年10月19日	評価結果市町村受理日	令和3年12月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0170202790-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和3年11月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

近隣との関係性が強く、札幌小学校のミニ児童会館の定期的な来訪や道徳授業【心のバリアフリー】の受け入れ、1階の札幌保育園のお遊戯披露会等を行っている。ここ数年はコロナウイルスの流行にて全てが中止となってしまっているが、敬老の日等には子供達からお手紙やプレゼントを頂き、直接関わる事は出来ないが、強固な関係性を継続している。ご家族様に対しては、コロナ禍で面会が出来ない状況下でもホームでの様子がわかる様に個別での、せせらぎ通信を発行している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○(コロナ禍)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○(コロナ禍)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ほのか)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員がいつでも見る事ができるように掲示して共有するように努めている。朝の申し送りの後にユニット理念を唱和し、日々の業務の中で理念の実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年ですとミニ児童会館や札幌小学校、札幌保育園との交流があるのですがコロナ禍の影響で交流はできていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為地域の方との交流も全く行われていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染者拡大した為運営推進会議は中止となっている。報告は文章のみで郵送させて頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍の為メールや電話連絡で最小限度に各区の介護保険課や保護課と連携を図るよう努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアルがユニットにあるので職員が周知している。その他勉強会で理解を深める予定だったがコロナ禍で延期となっている。玄関のカギは日中は施錠していない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止のマニュアル作成、閲覧、勉強会を開催し日々見過ごす事がないように注意している。		

グループホーム せせらぎの森

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ほのか)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護と成年後見制度について学んでいない職員が多いので今後はカンファレンスの時に理解できるように努めていく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書、重要事項説明書で十分な説明を行い理解と納得して頂けるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍で面会もないが意見箱の設置。 苦情相談窓口については契約時に説明をし案内はユニットの入口に掲示している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスやミーティング、を開催し職員の思いや考えを聞く機会を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況、職員の体調面、休憩時間介護技術向上について職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で外部の会議や勉強会に参加できていない。 未経験のスタッフに介護技術の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で同業者との交流は行っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ほのか)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談の際本人の不安、困りごとなどを伺い安心して暮らせる環境づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談時や契約時にご家族から困っている事などを聞く機会を設けて信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人やご家族様の希望をしっかりと伺い希望に添えるように努めている。各種のサービスともに連携し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の持っている能力を見極めながら日々の生活の中でお手伝いや職員と楽しみながら行える環境づくりを心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在はコロナ禍で来訪される方はいないが電話連絡や通信も活用して本氏の様子をお伝えして共に本人を支えていく関係作りを心掛けている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所についてはコロナ禍で全て支援は出来ていない。関係の継続についてはコロナが終息した際に体制を整えるように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が利用者さんを取り持ちながら会話や歌をうたったり運動、お手伝いを共に行い支え合い生活できるように努めている。		

グループホーム せせらぎの森

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ほのか)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後は交流はほとんどないが相談があれば対応していく。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で会話や訴えの中から本人の意向の把握に勤め自ら表出が困難な方にはご家族様に伺い検討するようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはセンター方式を用いて生活歴等の把握に努めている又はご本人、ご家族様との関係性を大切に情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや連絡ノートを活用する事で全スタッフが同じ情報を把握できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人、ご家族様の思いを大切にし日常生活の課題や医療関係者やリハビリの担当者からのお話なども反映しケアプラン作成にあたっている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に毎日の様子は記録し月1回のモニタリング、3カ月おきの短期評価、半年おきの長期評価にケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たなニーズに対してはカンファレンスなどで話し合い柔軟に対応できるように取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為中々地域の中で力を発揮できるように支援はできていないがホームの中でそれぞれの持っている力を発揮し役割を持った生活ができるようにしえんしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人やご家族様の希望に沿って希望の主治医が選択できるように必要に応じて、歯科、皮膚科整形など追加で受けられるように支援をしている。		

グループホーム せせらぎの森

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ほのか)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問日に情報を伝え相談や指示を受けている。訪問日以外にも電話連絡にて適切に医療に対応できるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報の提供や収集に努め必要に応じてコロナ禍で面会はできないがご家族様への連絡を行いながら早期退院にむけて支援に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の契約の時に説明させて頂き実際に近づいた時に再度説明させて頂いている。本人、ご家族様の思いを伺い支援につなげるように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会の実施、マニュアル作成を行い職員は対応できるように努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を通して全職員が避難方法を身につける事ができるように努めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切な言葉を貼り出し全職員が振り返ることが出来るようにしている。日頃から不適切な言葉が聞かれた際には職員同士注意しあえるようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何をする時もまずは本人の意思を確認するように努めているまた、本人が表出しやすいような表現を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムは大切にしながらも本人のペースやその日の体調を大切にしながらも本人本意になるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	できる限り本人に選択していただけるように対応している。出来ない方に対しては出来ていた頃の様子を参考にしたりご家族様からお話を伺い支援している。		

グループホーム せせらぎの森

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ほのか)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個人別に食べ物の形状や好み、アレルギーに対応して提供している。本人の能力に合わせて食器拭きやお盆拭き、テーブル拭きなどをお願いしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは業者による献立表が決まっている。本人の健康状態を考慮して提供し健康管理表に記入して訪問看護師と確認しながら健康管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。本人の能力に合わせて介助及びチェックを行っている。定期的に歯科医師による口腔状態による確認を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本としている。排泄パターンを把握して失敗や汚染を最小限に抑える工夫をしている。パットのやオムツについては本人に合った物か検討しながら支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自然な排便コントロールのお手伝いをさせていただくために朝の牛乳やオリゴ糖を使用したり、体操を行い予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決めず週2~3回入浴されている。一番先に入りたい方や浴室が寒いのが苦手な方などに対応しながら本人の要望に応じて順番を考慮して入浴されている。入浴日に拒否された方は翌日にお誘いしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調に合わせて日中も臥床して頂いている。就寝時間も今までの生活習慣に合わせて休まれている。安心して入眠できるように居室の明るさ調整を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の情報は個人ファイルに保管している。症状に変化があれば職員がいつでも確認出来るようにしている。重要な薬は連絡ノートに書いて職員に周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍で気分転換の外出は全くできていない。ホーム内で出来る事をお願いしたりおやつレクでホットケーキ作りで楽しんで頂いている。		

グループホーム せせらぎの森

自己評価	外部評価	項目	自己評価(ほのか)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為現在は外出、ご家族との面会も出来ていない。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで金銭管理を行っている。 必要な物が有ればご家族に相談して購入を代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を掛けたいとの希望が有れば夜中、早朝を除き希望に添えるよう対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じていただけるよう季節や行事ごとにホール内の壁に飾り付けを行っている。 利用者様一人ひとりが居心地が良いと思えるように配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者同士、談笑されたり歌をうたって楽しまれている。台所の近くが安心される方や自室よりもリビングソファで臥床されるのが好きな方等、その人の希望に添えるように工夫をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談して家具の配置や福祉用具の位置などを工夫をしている。 ご本人の使い慣れた物を持参していただいたり使用して居心地良く暮らせるように工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行の際は手すりを使って頂けるよう声掛けを行っている。居室前には目印や名前や番号などを目印に迷いのないように工夫をしている。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム せせらぎの森

作成日：令和 3年 11月 21日

市町村受理日：令和 3年 12月 1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	23	入居時にセンター方式で情報を収集しているのですが、本人の暮らし方(B-3)シートを活用し、具体的な言葉で追記も行い、アセスメントシートと一緒に見直しができるような工夫に期待したい。	身体的、精神的な変化だけではなく、その方の趣味や趣向、性格の変化等も把握していける様、新たな書式を追加し、実践していく。	年に1度は必ずアセスメントシートの更新を行っている為、次回更新時(今年中)からセンター方式B3を追加、もしくはそれに準ずる様式を作成していく。内容に関しても、例えば【歌が好き】だけではなく、【歌の何が好きなのか、どの歌手が好きなのか】までを情報収集し、その趣味や趣向の変化を感じ取れるようにしていく。	令和3年(今年中)のアセスメントシート更新時
2					
3					
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。